

本日も議論いただきたい事項

兵庫県観光を巡る内外の環境、現行のひょうごツーリズム戦略に基づく施策の取組み状況などを踏まえ、主に「課題と取組の方向」（資料2・P.10）について、ご意見をお伺いしたいと考えております。

- 1 次期戦略目標として、「観光交流人口の拡大」（量の目標）と、「定住人口減にともなう消費額減少のカバー」（質の目標）を掲げることについて
- 2 戦略目標をブレークダウンした「目的設定」及び「目的達成に向けた課題設定」について
- 3 「取組の方向」に係る新たな視点やアイデアについて

戦略の現状と課題整理

1	これまでの観光振興の取組	1
2	国内外観光の現状	2
3	兵庫県観光の現状	4
4	活用すべき兵庫の資源	8
5	課題と取組の方向	10

1 これまでの観光振興の取組

(1) 前提となる計画

兵庫 2030 年の展望

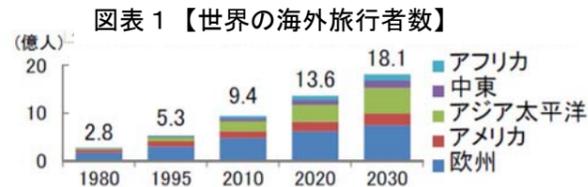
「すこやか兵庫」の実現 ～五国を活かし 日本を先導 世界につなぐ～

[兵庫の 2030 年の姿]

■ ツーリズム人口が拡大

交流五国

- ・地域資源の磨き上げにより、歴史遺産、体験・滞在型、健康・医療など多彩なツーリズムが人気を博し、県内の隅々に旅行者が拡大
- ・観光のほか、企業研修や国際会議など、外国人旅行者の訪問目的が多様化し、長期滞在も一般的に
- ・県民が県内各地の魅力ある観光資源を発見・再認識し訪問



(出典) 国連世界観光機関「Tourism Highlights」(2017)

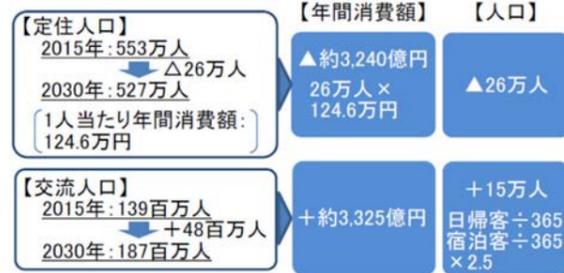
図表2【外国人旅行者数の目標】



※観光振興関連箇所を抜粋

図表3【観光客数の増加による消費効果】

2030年には2015年と比較して定住人口が26万人減少する一方、交流人口(ツーリズム人口)は4800万人増加の見込み。交流人口の増加で定住人口減に伴う消費減少額をカバー。



(出典) 総務省「国勢調査」(2015)、総務省「家計調査」(2015)、「地域創生戦略」(2016)、「観光客動態調査」(2015)を基にビジョン課推計

ひょうご経済・雇用活性化プラン(2019～2023年度)

[交流五国を実現する取組]

主な取組の視点

- ◆自然、文化、スポーツなど多様で豊かな地域資源を活かした誘客を拡大する
- ◆誰もが安心・快適に滞在できるツーリズム体制を作る

活用すべき
兵庫の強み

変化に富んだ自然

- ・六甲山、山陰海岸ジオパーク、鳴門のうず潮など瀬戸内海から日本海まで変化に富んだ自然環境に恵まれている

特色ある文化

- ・淡路人形浄瑠璃等の伝統芸能から、宝塚歌劇や神戸ジャズ等の現代文化まで擁し、世界文化遺産の姫路城をはじめ国宝などの歴史文化遺産を有する

スポーツ拠点・イベント

- ・甲子園球場等のスポーツ拠点施設や陸上競技場、ゴルフ場など各種スポーツ施設が整備
- ・ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西、2025年大阪・関西万博開催が続く

プロジェクト8 地域資源を活かした交流の拡大

- 海外からの誘客促進
 (1)ひょうごゴールドルートやゴールドパス、大阪・関西万博を生かした外国人の関心に応えるプロモーション展開
- 県内外からの誘客促進
 (1)ターゲットやテーマの明確化、多様な手段の活用によるプロモーション展開
- 五国の地域資源の磨き上げ・ツーリズムづくりの推進
 (1)兵庫の多様なツーリズム資源の創出と磨き上げ
 (2)特産品振興をはじめ観光消費拡大に向けた取組推進
 (3)外国人旅行者の県内周遊と滞在長期化を促す体験観光プログラム充実

プロジェクト9 ツーリズム体制づくり

- ハード・ソフト両面のインフラ化の推進
 (1)多言語対応、決済手段のキャッシュレス化等のインフラ受入体制の整備
 (2)公共交通、通信、施設等の観光基盤整備促進
- 観光関連事業者・団体・観光人材の組織・人強化
 (1)観光施設・産地事業者等観光関連事業者、ひょうごツーリズム協会等観光団体との連携・基盤強化
 (2)観光産業の人材確保・育成

※観光振興関連箇所を抜粋

(2) ひょうごツーリズム戦略(平成29～31年度)

概要

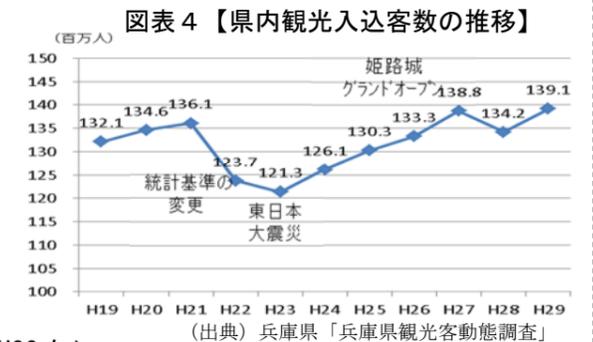
- 多様な地域資源を生かした兵庫ならではのツーリズム振興の基本指針及び実践的な行動目標を定める
- 「交流人口拡大」、「観光消費額拡大」、「スポーツイベントを捉えた交流拡大」の3つの課題の解決に向け4つの戦略を展開

課題	重点戦略
交流人口拡大	(戦略1) 兵庫ならではのツーリズムづくり ・首都圏等の新たなターゲットに対してストーリー性、テーマ性を発信しながら誘客
	(戦略2) 外国人旅行者をもてなす国際ツーリズムづくり ・ひょうごゴールドルートの打ち出しによる観光ブランドの向上 ・拠点地区から周辺への周遊拡大
観光消費額拡大	(戦略3) 地域の産業と協働するツーリズムづくり ・滞在時間を延ばし宿泊を誘発、旅館等の人材確保 ・特産品販売の拡大
スポーツイベントを捉えた交流拡大	(戦略4) 国際的なスポーツイベントをとらえた交流の拡大 ・国際的なスポーツイベントの参加者や家族をツーリズムに結びつける取組

進捗状況

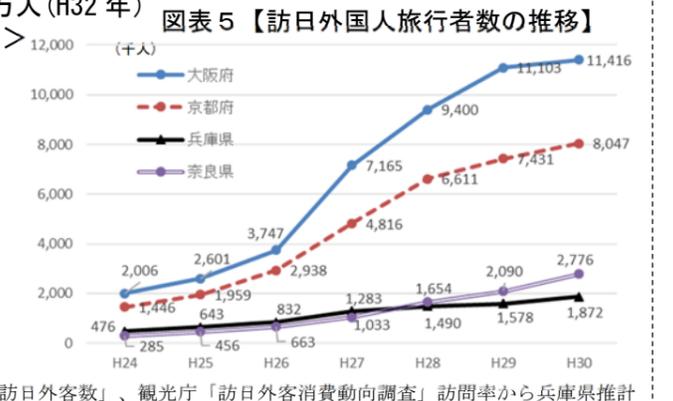
- ツーリズム人口(県内観光入込客数): 目標1億5,000万人(H31年度)
 <H29年度:1億3,905万人、H28年度:1億3,417万人>

- ・県内観光入込客数は、平成24年度以降、年2～4%と緩やかな増加を続け、平成28年度には若干減少したが、平成29年度は神戸港開港150周年関連行事などもあり、大幅に増加し、過去最高となっている。
- ・さらなる観光客の拡大を図るため、観光資源をつなぐ地域間連携や滞在型観光の取組を強化する必要がある。



- 国際ツーリズム人口(外国人旅行者数): 目標300万人(H32年)
 <H30年:187万人、H29年:158万人、H28年:149万人>

- ・県内への訪日外国人旅行者は、平成23年以降増加傾向にあり、平成30年は前年比18.3%増の187万人と、伸び率では大阪(1,142万人・2.9%増)、京都(805万人・8.3%増)より高くなっている。
- ・しかし、伸び率が高い奈良(278万人・33.0%増)より低く、なお低水準で推移しており、一層の拡大を図る必要がある。



(出典) 日本政府観光局「訪日外客数」、観光庁「訪日外客消費動向調査」訪問率から兵庫県推計

- 観光消費額: 目標1兆5,000億円(H31年度)
 <H29年度:1兆2,149億円、H28年度:1兆1,847億円>

- ・県内観光消費額(約1兆2,000億円)は、県内民間消費の約10%を占めるまでに成長している。
- ・本県サービス産業の維持・拡大、地域経済活性化にとって、観光消費額の拡大は、極めて重要な課題となっている。



(出典) 兵庫県「兵庫県観光客動態調査」

2 国内外観光の現状

(1) 日本人旅行者

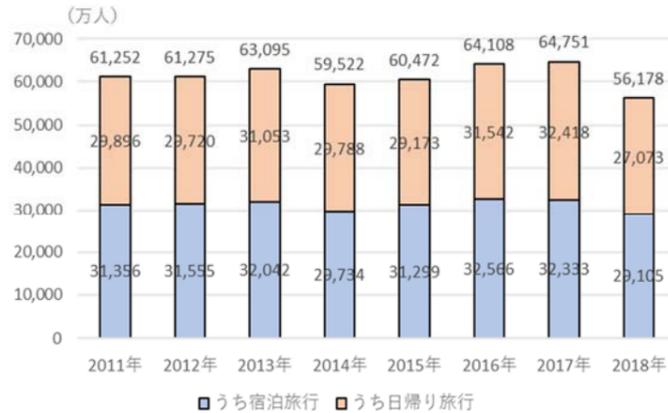
[日本人国内延べ旅行者数]

・日本人国内延べ旅行者数は、約6億人前後で横ばいに推移してきたが、2018年は5億6,178万人(前年比13.2%減)と、宿泊旅行、日帰り旅行とも大きく減少した。(図表1)

[日本人国内旅行消費額]

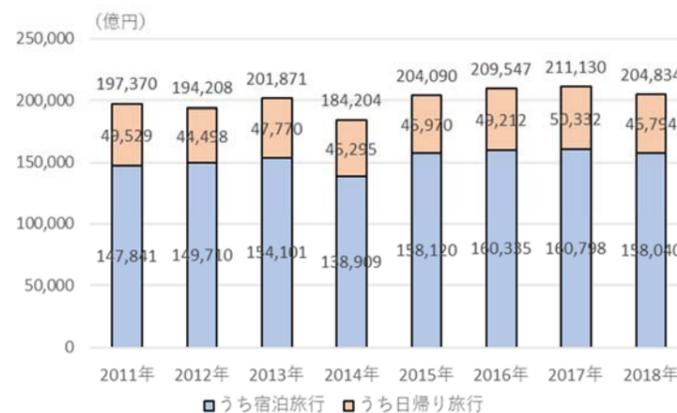
・2018年の日本人国内旅行消費額は、20兆4,834億円(前年比3.0%減)、宿泊旅行消費額は15兆8,040億円(前年比1.7%減)、日帰り旅行消費額は4兆6,794億円(前年比7.0%減)となっている。(図表2)

図表1【日本人国内延べ旅行者】



(出典) 観光庁「旅行・宿泊動向調査」

図表2【日本人国内旅行消費額】

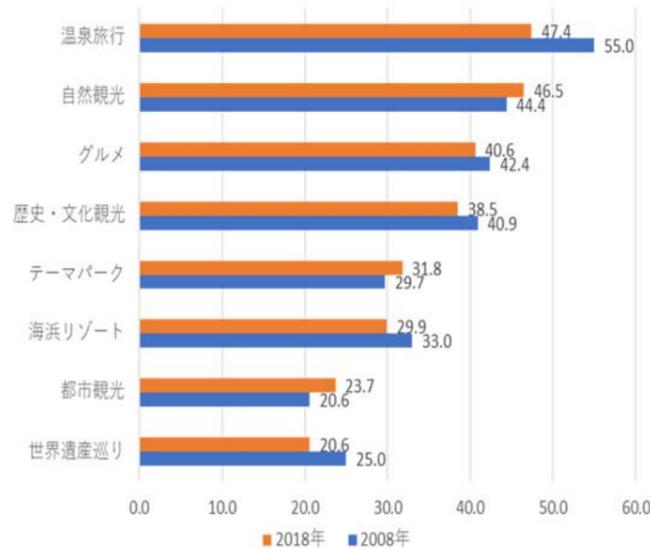


(出典) 観光庁「旅行・宿泊動向調査」

[日本人旅行者の旅行の目的]

・日本人旅行者の行ってみたい旅行の目的は、「温泉旅行」、「自然観光」、「グルメ」、「歴史・文化観光」の順になっているが、10年前との比較では、「温泉旅行」は減少する一方、「自然観光」は増加している。(図表3)
 ・性・年代別に見ると、男性はどの年代でも「自然観光」の人气が高く、50代以上では「温泉旅行」が上位を占める。女性では、20代、30代、40代ともに「グルメ」、「テーマパーク」、「温泉旅行」が上位3位を占めている。50代以上では「自然観光」、「温泉旅行」が1位、2位となっている。(図表4)

図表3【行ってみたい旅行の目的(複数回答)】



(出典) (公財)日本交通公社「JTBF 旅行意識調査」

図表4【性・年代別行ってみたい旅行の目的(上位5位)】

	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代
1位	自然観光	自然観光	テーマパーク	温泉旅行	自然観光	温泉旅行
2位	歴史・文化観光	歴史・文化観光	自然観光	自然観光	温泉旅行	自然観光
3位	グルメ	テーマパーク	グルメ	グルメ	歴史・文化観光	歴史・文化観光
4位	温泉旅行	都市観光	海浜リゾート	海浜リゾート	グルメ	グルメ
5位	都市観光	温泉旅行	温泉旅行	歴史・文化観光	世界遺産巡り	世界遺産巡り

	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代
1位	グルメ	温泉旅行	テーマパーク	自然観光	温泉旅行	温泉旅行
2位	テーマパーク	グルメ	グルメ	温泉旅行	自然観光	自然観光
3位	温泉旅行	テーマパーク	温泉旅行	歴史・文化観光	グルメ	歴史・文化観光
4位	自然観光	自然観光	自然観光	グルメ	歴史・文化観光	花の名所巡り
5位	歴史・文化観光	歴史・文化観光	歴史・文化観光	海浜リゾート	花の名所巡り	グルメ

(出典) (公財)日本交通公社「JTBF 旅行意識調査」

(2) 訪日外国人旅行者

[訪日外国人旅行者の動向]

・訪日外国人旅行者は、2013年以降、毎年約20%以上増加してきたが、2018年は3,119万人(前年比8.7%)と過去最高を更新したものの自然災害等の影響もあり、低い伸び率にとどまった。(図表5)

[国地域別の割合]

・国地域別の内訳は、2018年は中国、韓国、台湾、香港の順で多く、東アジアが約73%を占める。(図表6)
 ・2013年から5年間の比較では中国、フィリピン、ベトナム、韓国、香港が、全体3.0倍を上回って伸びている。(図表6)

図表5【訪日外国人旅行者数】



(出典) 日本政府観光局(JNTO)

図表6【国地域別の訪日外国人旅行者数】

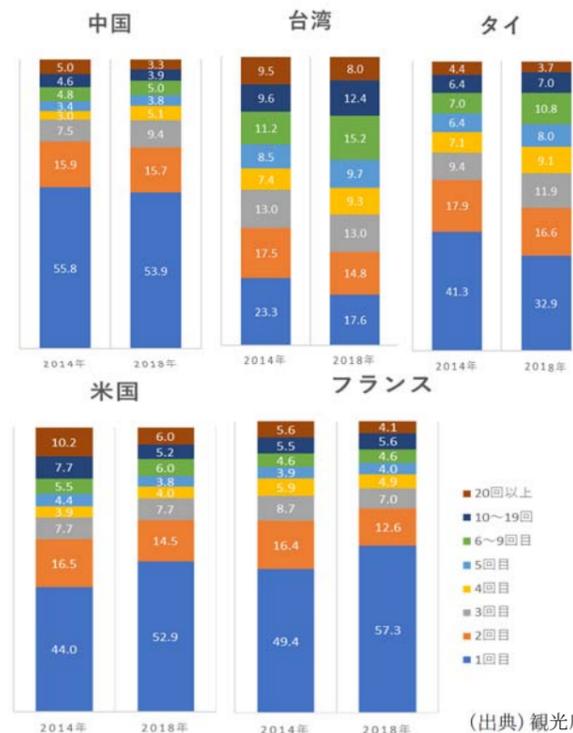
国・地域	2018	2013	2018/2013
1 中国	838.0	131.4	6.4
2 韓国	753.9	245.6	3.1
3 台湾	475.8	221.1	2.2
4 香港	220.8	74.6	3.0
5 米国	152.7	79.9	1.9
6 タイ	113.2	45.4	2.5
7 豪州	55.2	24.5	2.3
8 フィリピン	50.4	10.8	4.7
9 マレーシア	46.8	17.7	2.6
10 シンガポール	43.7	18.9	2.3
11 インドネシア	39.6	13.7	2.9
12 ベトナム	38.9	8.4	4.6
13 英国	33.4	19.2	1.7
14 カナダ	33.1	15.3	2.2
15 フランス	30.4	15.5	2.0

単位: 万人 (出典) 日本政府観光局(JNTO)

[訪日外国人旅行者の傾向①]

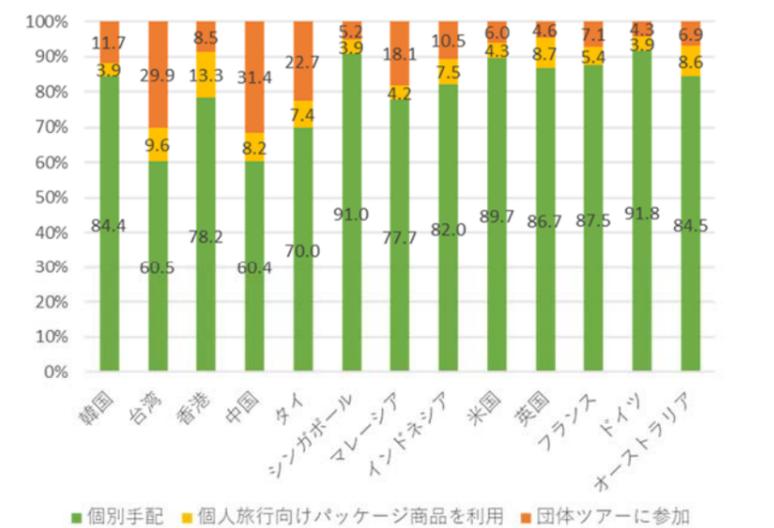
・台湾などの東アジア、タイなどの東南アジアからの旅行者を中心にリピーターが増加している。2018年では、台湾は8割、タイは7割がリピーターになっている。一方、中国は初訪日者が5割を占める。(図表7)
 ・欧米では、米国の5割、フランスの6割が初訪日層で、2014年と比較するとその比率は増加。(図表7)
 ・旅行形態は、中国や台湾には団体ツアーが一定数ある。香港は、個人向けパッケージツアーも活用している。欧米豪は、個人手配が約9割を占める。(図表8)

図表7【国地域別の訪日回数動向】



(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

図表8【国地域別旅行形態(旅行手配方法)】



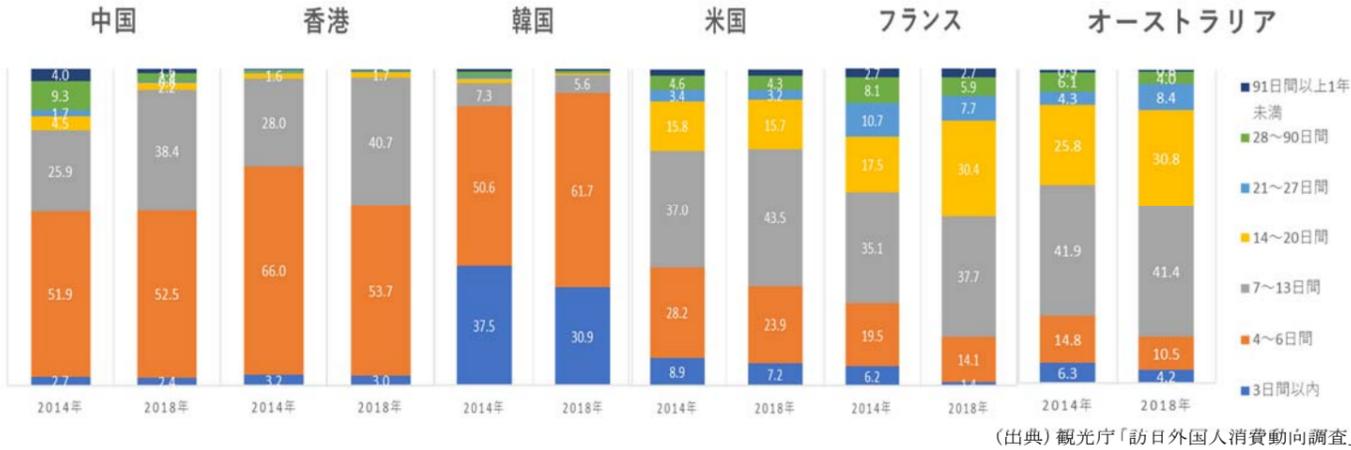
(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

(2) 訪日外国人旅行者(つづき)

[訪日外国人旅行者の動向②]

- ・日本での滞在日数は、中国、香港、韓国などアジア各国は6日間以内の短期滞在、欧米豪は20日間以内の長期滞在が多くなっている。
- ・2014年との比較では、欧米豪では滞在が長期化の傾向にある。(以上、図表9)

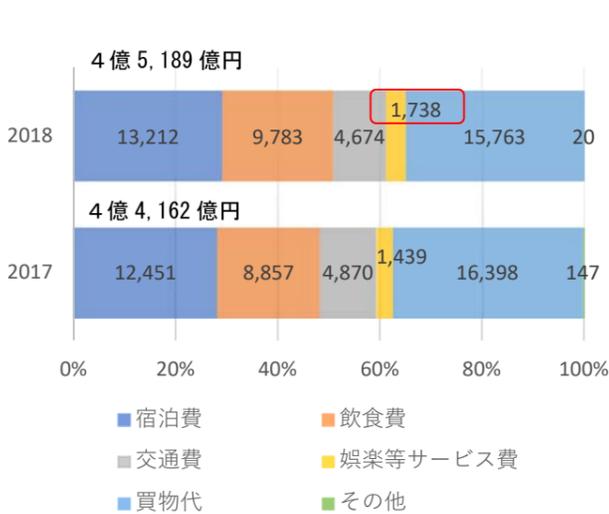
図表9【国地域別の日本での滞在日数】



[訪日外国人旅行者の消費支出]

- ・訪日外国人旅行消費額は、4兆5,189億円(前年比+2.3%)と過去最高ながら旅行者数に比して伸び悩んでいる。
- ・前年に比べ、宿泊費と飲食費の構成比が増加し、買い物代は減少した。一方で、娯楽等サービス費は1,738億円(構成比3.8%)にとどまっている。(以上、図表10)
- ・訪日外国人1人当たり旅行支出は総額平均で15.3万円となっており、オーストラリア、スペイン、中国の順が多い。費目別では、宿泊費、飲食費は欧米豪が比較的多く、買い物代は中国、娯楽等サービス費はオーストラリアが最も多い。(図表11)

図表10【訪日外国人旅行消費額・費目別構成比】



図表11【訪日外国人1人当たり旅行支出(2018)】

	総額	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス	買い物代	その他
全国籍・地域	153,029	45,787	33,748	16,160	6,011	51,256	67
1 オーストラリア	242,041	99,175	58,878	34,892	16,171	32,688	236
2 スペイン	237,234	92,543	62,129	42,159	7,620	32,783	0
3 中国	224,870	47,854	39,984	16,834	7,998	112,104	95
4 イタリア	223,555	87,652	57,803	39,204	7,552	31,057	287
5 英国	220,929	100,692	56,050	33,172	8,341	22,641	34
6 フランス	215,786	85,544	56,933	33,438	7,358	32,472	41
7 その他	199,728	84,529	48,463	29,455	6,354	30,912	14
8 ドイツ	191,736	84,555	47,536	28,333	5,974	25,250	87
9 米国	191,539	82,286	50,630	27,318	7,865	23,406	34
10 ベトナム	188,376	55,818	43,846	18,900	5,923	63,649	240
11 ロシア	188,256	62,710	43,837	22,038	7,973	51,554	143
12 カナダ	183,218	74,857	47,469	27,579	7,993	25,176	144
13 シンガポール	172,821	63,311	41,406	19,890	6,467	41,691	54
14 インド	161,423	75,371	34,026	21,864	3,747	26,415	0
15 香港	154,581	45,625	36,887	16,683	5,063	50,287	36
16 インドネシア	141,419	48,117	29,156	20,946	5,585	37,599	17
17 マレーシア	137,612	44,950	30,400	16,371	6,466	39,422	3
18 台湾	127,579	35,312	28,190	13,548	5,059	45,441	30
19 タイ	124,421	36,836	27,740	15,033	4,416	40,248	149
20 フィリピン	121,921	31,448	30,074	14,459	6,077	39,596	268
21 韓国	78,084	24,974	19,961	7,636	3,917	21,549	47

(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査(2018年確報値)」

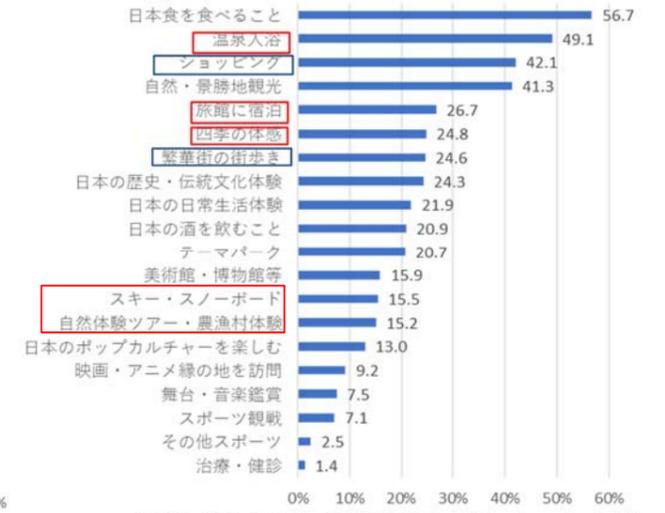
[訪日外国人旅行者の旅行の目的]

- ・訪日前の旅行への期待は、「日本食」「ショッピング」「自然・景勝地観光」「繁華街の街歩き」の順(図表12)
- ・旅行後に次回の旅行に期待することでは、「温泉入浴」「旅館に宿泊」「四季の体感」の順位を上げる一方で、「ショッピング」「繁華街の街歩き」は減少。「日本食」は、旅の前後とも最も期待することとなっている。(図表13)

図表12【訪日前に期待していたこと】



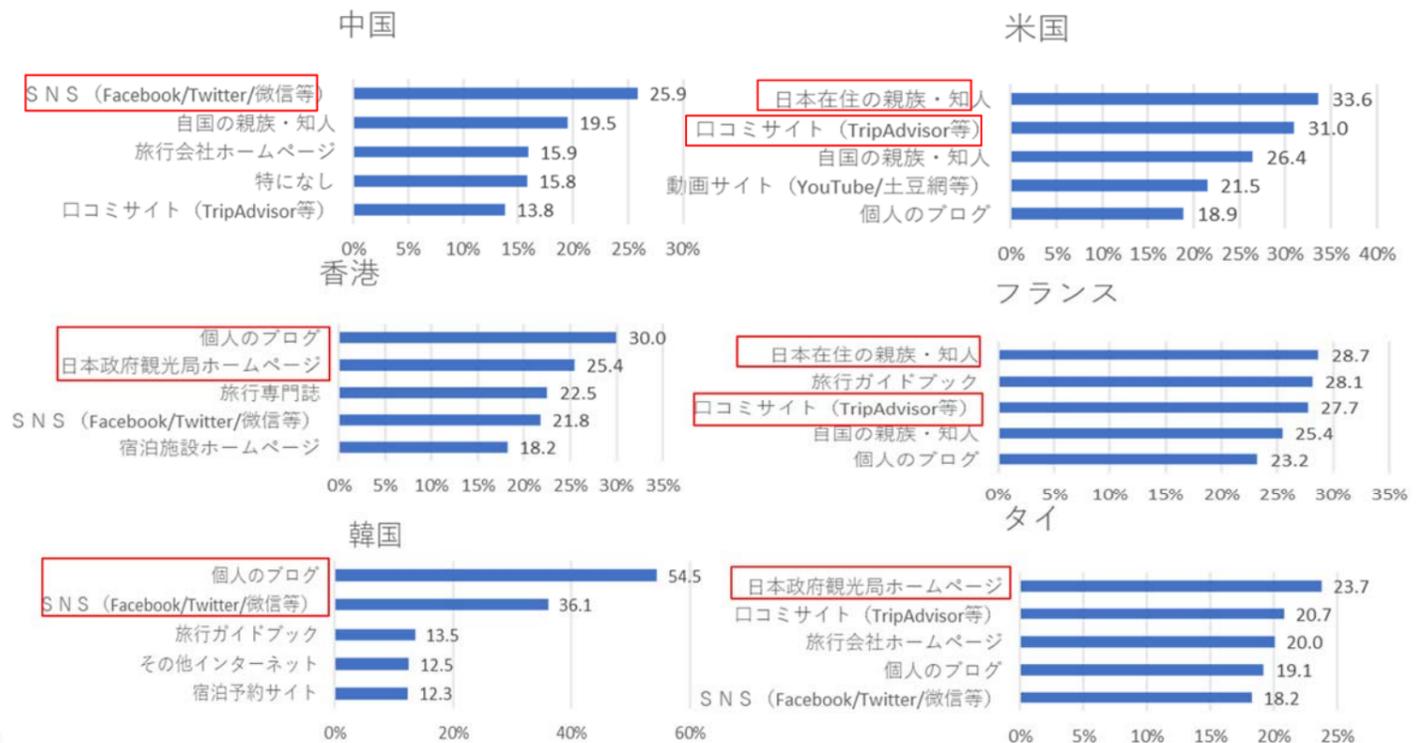
図表13【次の訪日旅行に期待すること】



[訪日旅行に関する情報収集方法]

- ・訪日旅行に関する情報収集方法は、中国、香港・韓国で「SNS」「個人のブログ」が最も多く、欧米では、「日本在住の親戚・知人」「口コミサイト」など口コミが多くなっている。
- ・タイ、香港では「日本政府観光局ホームページ」が情報収集先の上位に入っている。(以上、図表14)

図表14【国地域別の訪日旅行に関する情報収集方法】



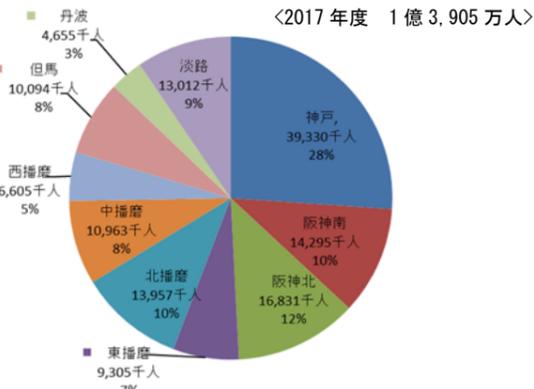
3 兵庫県観光の現状

(1) 兵庫県観光の概況

【観光入込客の状況】

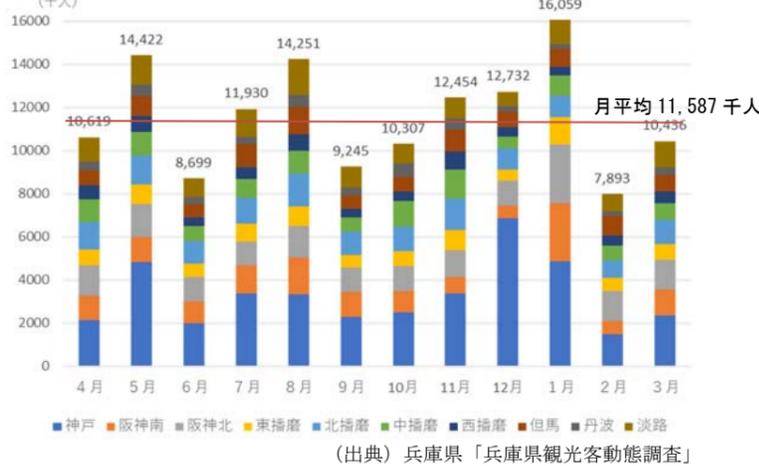
- ・県内地域別の観光入込客数は、神戸・阪神が50%、播磨が30%、但馬・丹波・淡路が20%となっている。(図表1)
- ・月別では5月、7月、8月、11月、12月、1月が月平均を上回る一方で、2月、6月、9月が閑散期となっている。5月、12月は神戸、7月、8月は淡路、11月は但馬・丹波、1月は神戸・阪神の入込が全体を牽引(図表2)

図表1【県内地域別観光入込客数(2017)】



〈調査対象〉年間入込み客数1万人以上及び特定月5千人以上(約1,200地点) (出典)兵庫県「兵庫県観光客動態調査」

図表2【県内月別・地域別観光入込客数(2017)】

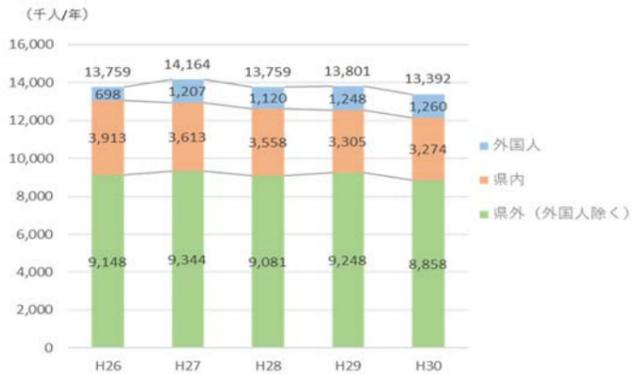


(出典)兵庫県「兵庫県観光客動態調査」

【宿泊者の状況①】

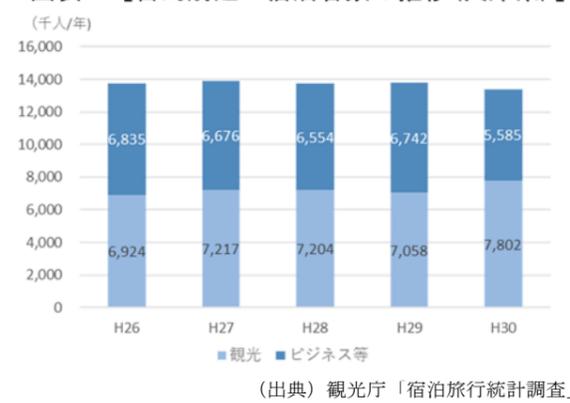
- ・県内延べ宿泊者数は1,339万人(前年比△3.0%)となったが、外国人は126万人(前年比+0.9%)の微増(図表3)
- ・目的別にみると、観光が主目的の宿泊者は780万人(前年比+10.5%)と大きく増加(図表4)
- ・2018年は月別では、8月が最も多く、6月の県外客の減少、9月の外国人の減少が大きかった。(図表5)
- ・宿泊者の出発地は全国と比べ県内からの宿泊者が多い。また、外国人の割合は大阪・京都に比べ低い。(図表6)

図表3【県内延べ宿泊者数の推移(兵庫県)】



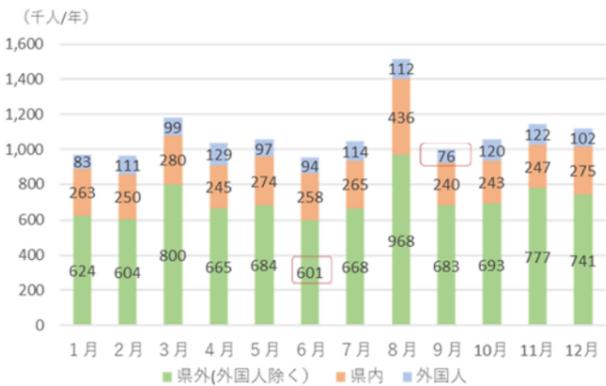
(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表4【目的別延べ宿泊者数の推移(兵庫県)】



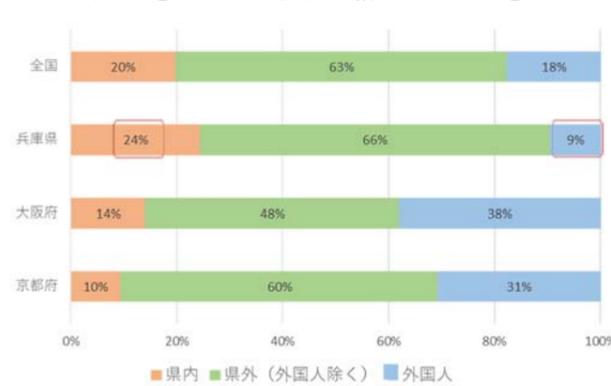
(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表5【月別延べ宿泊者数(兵庫県・2018)】



(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表6【延べ宿泊者数の構成比(2018)】



(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」

【宿泊者の状況②】

- ・兵庫は大阪・京都に比べて県内からの宿泊者比率が高く、大阪からの宿泊者を合わせると3割以上(図表7)
- ・宿泊旅行の単価は日帰り旅行の約3倍ある。宿泊単価は上昇傾向にあるが全国平均を下回っている。(図表8)
- ・県内宿泊客の宿泊単価は3万円未満が85%、東京・神奈川からの宿泊客は高単価の客層が多い。(図表9・10)

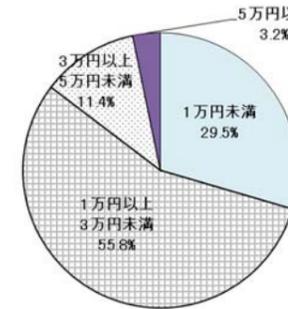
図表7【兵庫・大阪・京都の宿泊者の出発地(2017)】

兵庫県		大阪府		京都府	
出発地	比率	出発地	比率	出発地	比率
大阪府	17.8%	東京都	17.5%	東京都	22.0%
兵庫県	15.0%	神奈川県	10.3%	神奈川県	12.3%
東京都	10.4%	埼玉県	8.3%	埼玉県	9.1%
京都府	5.7%	福岡県	6.3%	千葉県	6.7%
神奈川県	5.2%	千葉県	6.2%	福岡県	4.9%
愛知県	4.7%	愛知県	5.8%	愛知県	3.8%
埼玉県	3.8%	広島県	5.0%	大阪府	3.7%
広島県	3.8%	北海道	3.1%	広島県	3.3%
千葉県	3.4%	大阪府	2.8%	兵庫県	2.6%
奈良県	2.7%	茨城県	2.2%	北海道	2.5%

※旅行会社(店頭・ネット)等が提供する約8,000万泊の宿泊実績データによるサンプル調査

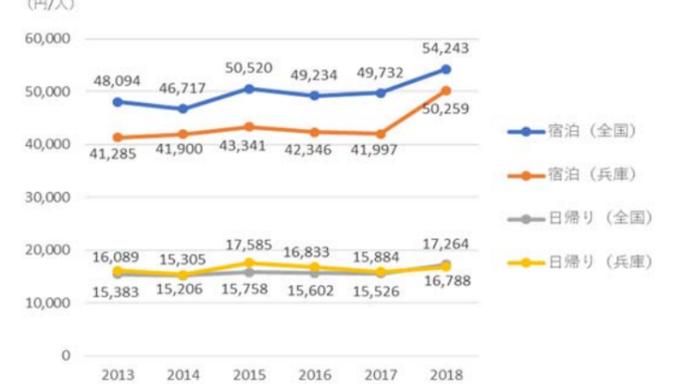
(出典)日本観光振興協会「観光予報プラットフォーム」データを基に作成

図表9【県内宿泊客の1人あたり宿泊単価(2017)】



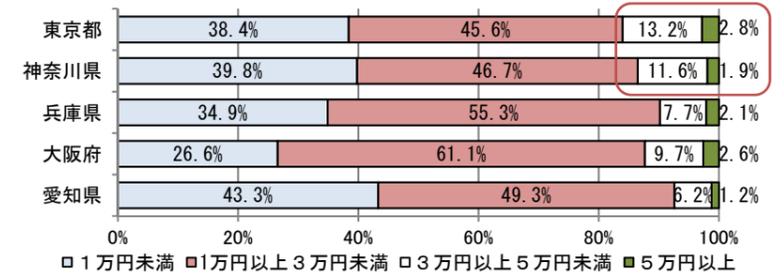
(出典)日本観光振興協会「観光予報プラットフォーム」データを基に作成

図表8【旅行単価の推移(全国・兵庫県)】



(出典)観光庁「旅行・観光消費動向調査」

図表10【出発地別の宿泊客1人あたり宿泊単価】

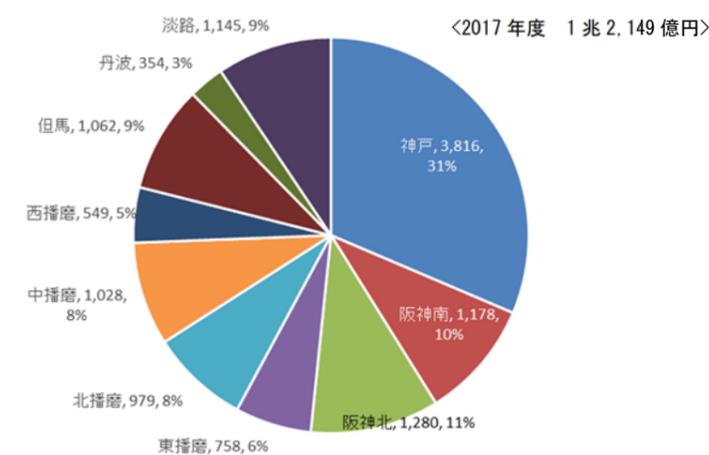


(出典)日本観光振興協会「観光予報プラットフォーム」データを基に作成

【観光消費額・観光GDP】

- ・県内地域別の観光消費額は、神戸・阪神が52%、播磨が27%、但馬・丹波・淡路が21%となっている。(図表11)
- ・観光産業県内総生産(観光GDP)は6,979億円(2017年度名目値)で県内GDPの3.3%を占めるが、但馬や淡路などでは、観光産業の域内GDPに占める比重が高く、地域経済を支える存在となっている。(図表12)

図表11【地域別観光消費額(2017)】



(出典)兵庫県「兵庫県観光客動態調査」統計課試算による

図表12【地域別観光GDP(2017)】

地域	観光産業域内総生産(名目)		比率(A/B)
	観光GDP(A)	域内総生産(名目)域内GDP(B)	
神戸地域	2,182	68,103	3.2%
阪神南地域	682	34,308	2.0%
阪神北地域	744	19,782	3.8%
東播磨地域	438	27,450	1.6%
北播磨地域	567	11,231	5.0%
中播磨地域	590	25,726	2.3%
西播磨地域	315	9,781	3.2%
但馬地域	600	6,110	9.8%
丹波地域	205	3,720	5.5%
淡路地域	656	4,424	14.8%
兵庫県計	6,979	210,635	3.3%

(出典)兵庫県「兵庫県観光客動態調査」、兵庫県「市町民経済計算」

(1) 兵庫県観光の概況 (つづき)

[周遊観光の状況]

- ・県内での宿泊費助成事業の対象者の分析から、県内周遊観光については、以下のような特徴がある。(図表13)
- ① 神戸市と姫路市・赤穂市・豊岡市・洲本市・南あわじ市間を連泊(周遊)するコースが多い。
- ② 神戸市内での連泊のほか、但馬内・淡路内で連泊(周遊)するコースが多い。
- ③ 宝塚市や丹波などの県東側地域と但馬間を連泊(周遊)するコースはほとんどない。

図表 13【県内での周遊(連泊)の状況】

※県内1泊目の宿泊地(縦)、2泊目の宿泊地(横)

	神戸市	姫路市	赤穂市	宝塚市	篠山市	丹波市	豊岡市	朝来市	香美町	新温泉町	淡路市	洲本市	南あわじ市
神戸市	455	67	35	10			62	4		12	4	31	17
姫路市	47	46	10				13	4		8		4	4
赤穂市	21	19	7		2		2			4		6	
宝塚市	1			4									
篠山市							2						
丹波市	6												
豊岡市	36		2		2	1	70	10	11	13			14
朝来市	5	3					1						
香美町	2		2				7		5	1			
新温泉町							23		2	13			4
淡路市	73	3	6	3			6	2		4	2	2	12
洲本市	3	7										16	5
南あわじ市	16	3	6	3				2				31	23

■ 100人泊以上 ■ 50人泊以上 ■ 20人泊以上 ■ 10人泊以上

<調査対象>

平成30年8月28日～平成31年1月31日の期間に、ふっこう周遊割の宿泊補助を受けて兵庫県内に2泊以上連泊した者

旅行者自身が宿泊施設を選んで予約、宿泊し、補助申請があったもの(n=1,672)

(出典) 兵庫県「平成30年7月豪雨災害後の復興に向けた観光支援業務に関する最終報告書」を基に作成

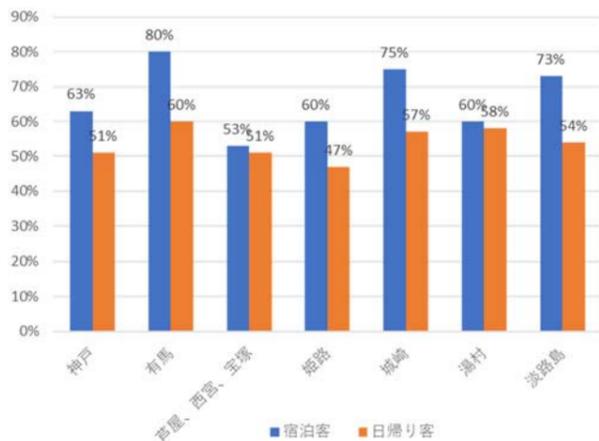
[来訪者満足度]

- ・県内観光地の満足度調査では、いずれの地域でも日帰り客より宿泊客の満足度が高く、有馬、城崎、淡路島では、宿泊客の満足度は、日帰り客より約20ポイント高い。(図表14)

[再訪意向・リピーター率]

- ・県内観光地の再訪意向は、いずれの地域もほぼ70%以上となっているが、リピーター率では、神戸59%から湯村8%まで、地域によって開きがある。再訪意向があってもリピーターにつながらない層が一定存在する。(図表15)

図表 14【県内観光地の来訪者満足度】

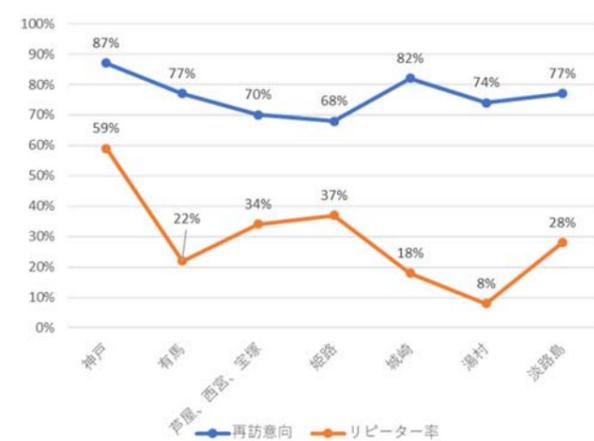


※各観光地 5,000名へのアンケート調査(2016年3月実施)

※当該地域に3年以内に訪問したことがある人を対象に「大変満足、満足、どちらでもない、あまり満足していない、全く満足していない」の5段階で調査。満足度は、「大変満足、満足」の人の割合

(出典) JTB「JTB地域パワーインデックス調査2017」

図表 15【県内観光地の再訪意向・リピーター率】



※再訪意向:「もう一度、訪れてみたい」と回答した人の割合
リピーター率:2回目以上の訪問者の割合

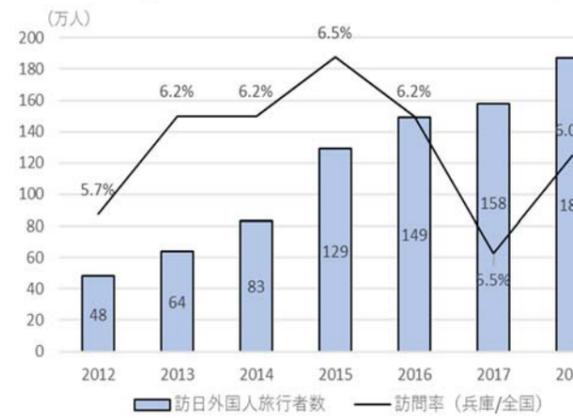
(出典) JTB「JTB地域パワーインデックス調査2017」

(2) 兵庫の訪日外国人旅行者

[訪日外国人旅行者の動向]

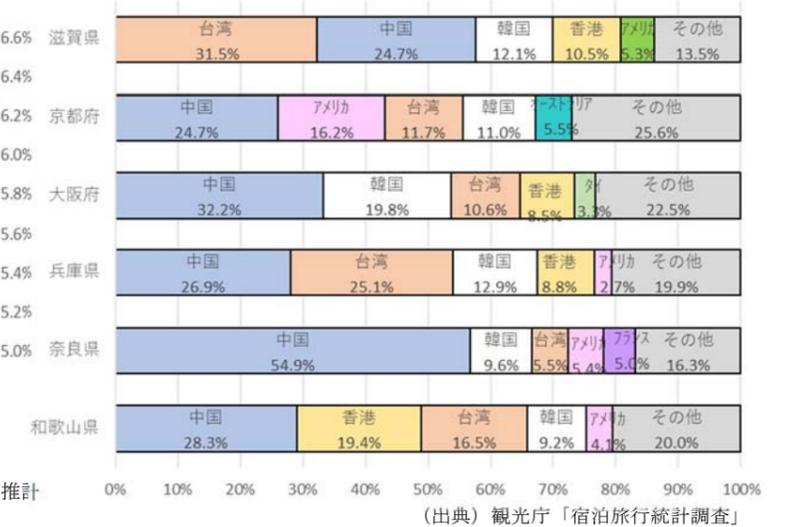
- ・兵庫県への訪日外国人旅行者は、2018年で187万人(前年比+18.3%)となっている。旅行者数は、毎年増加しているものの、デスティネーションとして兵庫が選ばれた比率(訪問率)は、5.5%~6.5%の間で推移(図表16)
- ・国地域別の延べ宿泊者数を見ると、兵庫県は中国、韓国、台湾、香港の東アジア4か国で73%を占める。京都府は、中国の次にアメリカが続き、オーストラリアも上位に入る。奈良県は中国が過半を占め、アメリカ、フランスが上位に位置する。(図表17)

図表 16【訪日外国人旅行者の推移(兵庫県)】



(出典) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」訪問率から兵庫県推計

図表 17【国地域別延べ宿泊者構成比(関西府県・2018)】

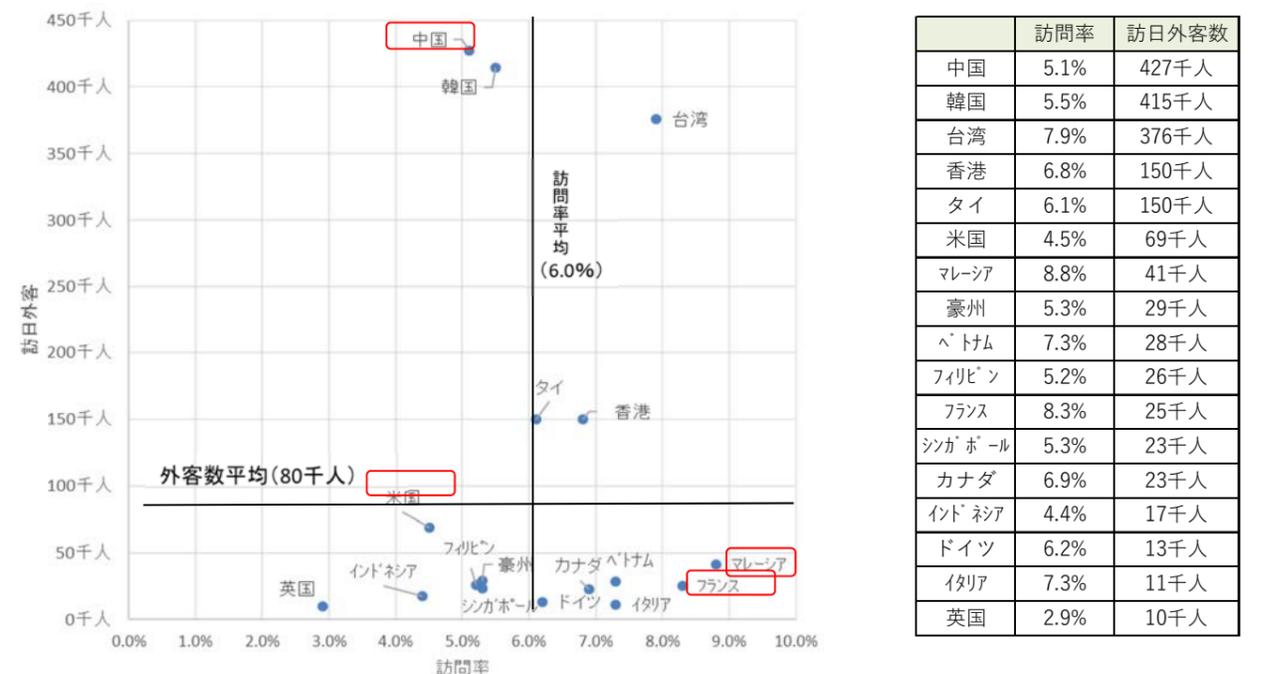


(出典) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

[訪日外国人旅行者の傾向]

- ・兵庫県の訪日外国人旅行者は、台湾、香港は、平均訪問率を上回っている一方で、パイの大きな中国やアメリカからの訪問率が平均訪問率(6.0%)より下回っており、十分な呼び込みができていない。
- ・フランスやマレーシアなどは、旅行者数は少ないものの、訪問率は平均より高くなっており、兵庫県が他府県に対して比較優位にあると考えられる。(以上、図表18)

図表 18【国地域別の訪日客数と訪問率(兵庫県・2018)】



(出典) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」訪問率を基に作成

(2) 兵庫の訪日外国人旅行者(つづき)

[滞在型観光の状況]

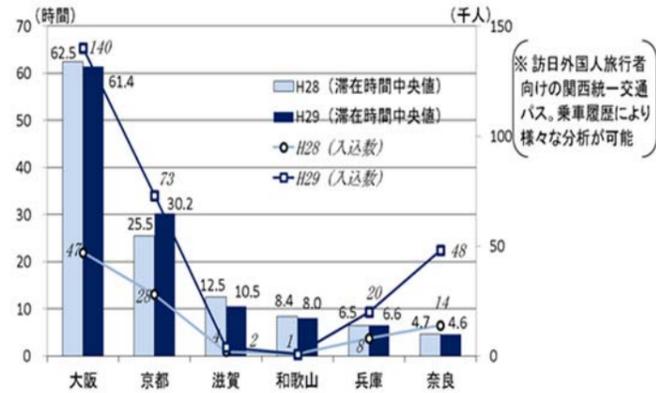
- 兵庫県の平均宿泊日数は2.1日～2.5日(都道府県順位では35～40位)にとどまっている。
- 関西府県の平均宿泊日数は総じて短くなっており、関西の観光地を周遊滞在する訪日外国人の旅行スタイルがうかがえる。(以上、図表19)
- 「KANSAI ONE PASS」を利用した兵庫県の訪日客滞在時間は6.6時間で、大阪府(61.4時間)、京都府(30.2時間)に比べて圧倒的に短く、関西府県では奈良県(4.6時間)に次いで短い。(図表20)

図表 19【平均宿泊日数(2018年四半期別)】

1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期	
順位	都道府県	順位	都道府県	順位	都道府県	順位	都道府県
1	群馬県	1	埼玉県	1	山形県	1	福井県
2	愛媛県	2	新潟県	2	埼玉県	2	埼玉県
3	埼玉県	3	茨城県	3	茨城県	3	群馬県
4	茨城県	4	三重県	4	群馬県	4	茨城県
5	秋田県	5	福井県	5	高知県	5	福島県
6	島根県	6	福島県	6	福井県	6	三重県
7	青森県	7	香川県	7	秋田県	7	山口県
8	福島県	8	宮城県	8	三重県	8	北海道
9	愛知県	9	青森県	9	東京都	9	愛知県
10	栃木県	10	群馬県	10	宮城県	10	島根県
29	滋賀県	15	滋賀県	14	滋賀県	26	滋賀県
30	大阪府	31	大阪府	18	和歌山県	29	大阪府
31	和歌山県	36	兵庫県	30	大阪府	31	和歌山県
35	兵庫県	40	和歌山県	33	京都府	36	兵庫県
39	京都府	41	京都府	40	兵庫県	39	京都府
47	奈良県	47	奈良県	47	奈良県	47	奈良県

(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

図表 20【「KANSAI ONE PASS」を利用した訪日客滞在時間】



(出典) 国土交通省近畿運輸局、関西経済連合会、関西観光本部

[関西広域周遊の状況①]

- 香港、台湾の旅行者は関西各地を万遍なく訪問している。一方、韓国は周遊が少なく、鳥取県への集中度が高い。
- 中国、東南アジア、北米、オセアニアの旅行者は一定程度、周遊している。
- 欧州の旅行者は、京都、姫路城、城崎、高野山など著名な観光地、世界遺産を周遊している。
- 兵庫県内各市は中国の旅行者の集中度が低く、十分な呼び込みができていない。一方で、姫路市、豊岡市では、欧州、北米、オセアニアの旅行者の周遊がみられる。(以上、図表23)

図表 23【国地域別訪日客の集中度合い】

	福井県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	鳥取県	徳島県
中国	0.8	0.4	0.9	1.5	1.2	0.6	1.1	0.8	0.7
香港	1.7	2.7	1.6	2.2	0.8	1.1	1.2	1.9	0.7
台湾	1.4	3.0	1.7	0.9	1.7	2.4	2.0	2.8	0.8
韓国	0.5	0.3	0.2	0.3	0.4	0.7	0.2	0.3	0.3
東南アジア	0.6	0.9	0.7	0.7	2.5	0.7	0.5	0.8	0.2
欧州	0.3	0.0	0.9	1.0	2.0	0.6	0.0	1.7	0.5
北米	2.0	0.7	1.3	0.5	0.9	1.2	1.2	0.8	1.4
オセアニア	0.5	0.0	0.7	0.6	0.4	1.1	0.6	1.1	0.5

(出典) 関西観光本部「2018年度関西広域周遊に向けたマーケティング調査結果」より抜粋

【算出方法の概要】

- 国籍別地域別の訪問割合を各地点の全国籍訪問割合の平均値で割戻して算出
- 「1.0」よりも大きい場合は他国籍に比して訪問が多いことを示す(緑色)
- 「1.0」よりも小さい場合は他国籍に比して訪問が少ないことを示す(赤色)
- 赤が多い国籍は周遊が少なく、緑が多い国籍は周遊が多い
- ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」データを分析

[消費支出の状況]

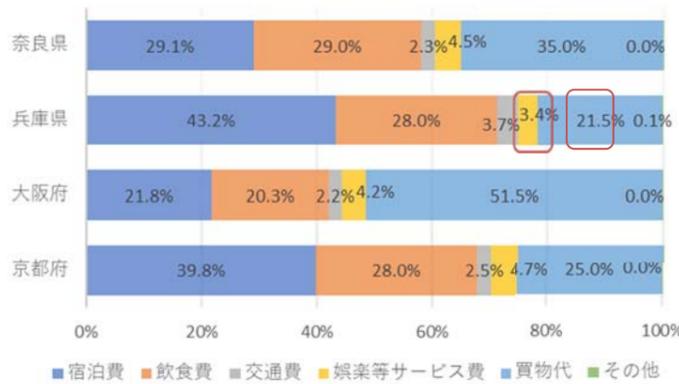
- 兵庫県の訪日外国人旅行者1人1回あたり旅行消費単価は2.1万円～3.8万円(都道府県順位24～41位)にとどまっている。(図表21)
- 旅行消費額の費目別構成比では、兵庫県は関西府県と比較して、買物代、娯楽等サービス費の割合が低くなっている。(図表22)

図表 21【1人1回あたり旅行消費単価(2018年四半期別)】

1～3月期		4～6月期		7～9月期		10～12月期	
順位	都道府県	順位	都道府県	順位	都道府県	順位	都道府県
1	北海道	1	東京都	1	埼玉県	1	東京都
2	東京都	2	新潟県	2	高知県	2	北海道
3	群馬県	3	北海道	3	東京都	3	沖縄県
4	茨城県	4	沖縄県	4	北海道	4	茨城県
5	長野県	5	埼玉県	5	沖縄県	5	大阪府
6	埼玉県	6	山形県	6	茨城県	6	群馬県
7	青森県	7	大阪府	7	宮城県	7	山形県
8	沖縄県	8	宮城県	8	鹿児島県	8	福岡県
9	愛媛県	9	香川県	9	山形県	9	新潟県
10	大阪府	10	福岡県	10	大阪府	10	岩手県
24	兵庫県	19	滋賀県	27	京都府	23	滋賀県
32	滋賀県	31	京都府	30	和歌山県	28	京都府
34	和歌山県	36	兵庫県	34	滋賀県	34	兵庫県
37	京都府	37	和歌山県	41	兵庫県	40	和歌山県
47	奈良県	47	奈良県	47	奈良県	47	奈良県

(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

図表 22【旅行消費額費目別構成比(2018)】

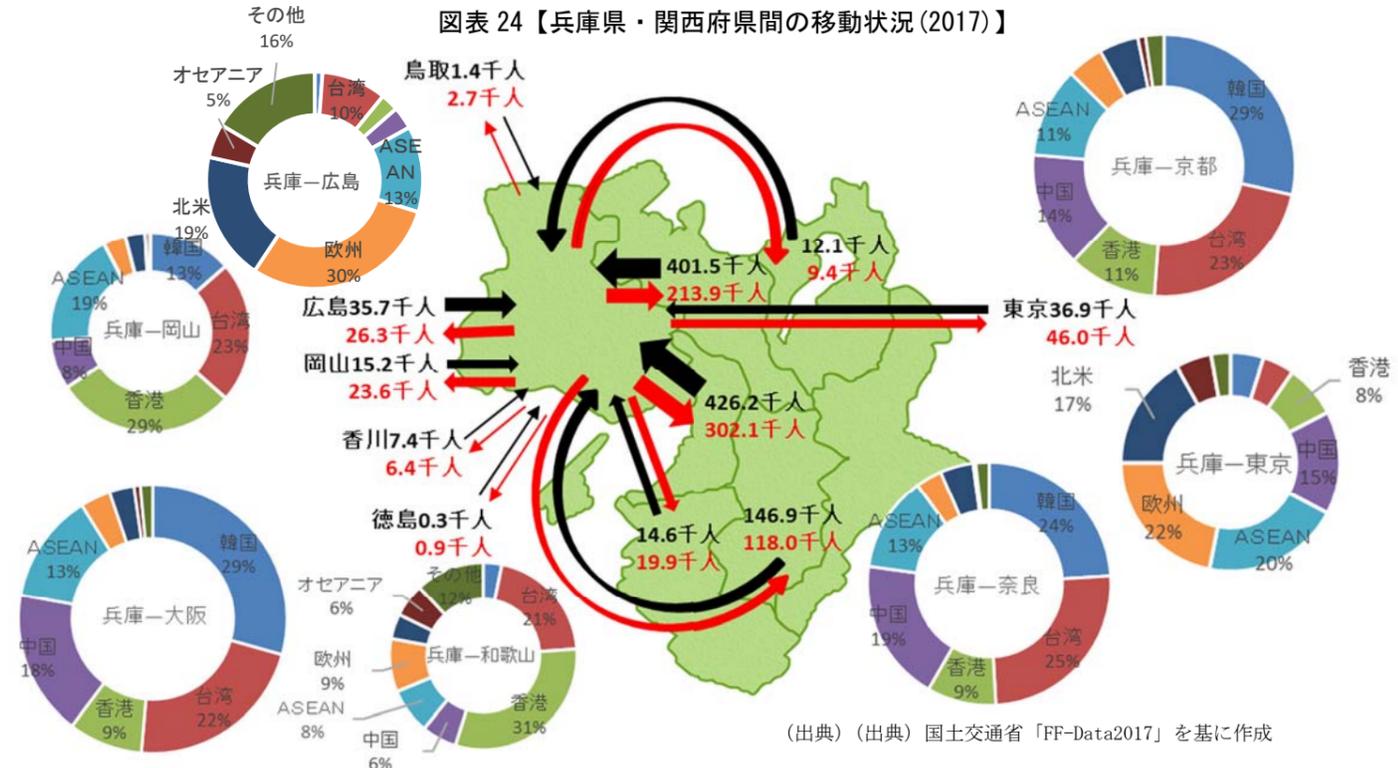


(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

[関西広域周遊の状況②]

- 兵庫県と大阪府、京都府、奈良県など近距離移動では、韓国、台湾の旅行者が約50%、岡山県、和歌山県など中距離移動では、台湾、香港の旅行者が約50%、東京都、広島県など遠距離移動では、欧州、北米の旅行者が約50%を占める。(図表24)

図表 24【兵庫県・関西府県間の移動状況(2017)】



(出典) 国土交通省「FF-Data2017」を基に作成

(3) 兵庫のゲートウェイの現状

[関西3空港・但馬空港の状況]

- ・関西国際空港は、LCC(格安航空会社)の就航により、旅客数は外国人旅行者を中心に好調に推移しており、2018年度は、国際線旅客数は過去最高の2,940万人となった。(図表25・26)
- ・大阪国際空港(伊丹)の旅客数は、2018年度1,630万人となり、7年連続前年度を上回った。(図表25)
- ・神戸空港の旅客数は、地方管理空港の中で最も多く、2018年度は過去最高の319万人を記録した。平均搭乗率も80%を超える中、今後の運用規制の緩和による更なる旅客増が期待される。(図表26・27)
- ・但馬空港は、伊丹空港との1日2往復の就航であるが、2018年度から大型機材(33人乗り⇒48人乗り)の導入などにより、旅客数は過去最高の4.2万人(前年比32%増)となった。(図表29)

[国際空港からの誘客状況]

- ・入出国とも関西国際空港の外国人旅行者は、兵庫県には114万人訪問しており第3位となっている。(図表30)
- ・国際線就航の地方空港(高松・岡山等)から入出国する外国人の立地県訪問数は近年大幅に増加(図表31)
- ・関空経由で成田・羽田空港から入出国する外国人旅行者は、兵庫県より空港隣接県ではない愛知県、広島県の方が多い。(図表32)

図表25【関西3空港の旅客数(2018年度)】

順位	空港	国内線	国際線	合計
1	東京国際空港(羽田)	6,752.8	1,816.4	8,569.2
2	成田国際空港	730.5	3,393.3	4,123.9
3	関西国際空港	651.3	2,289.4	2,940.7
4	福岡空港	1,791.8	691.9	2,483.6
5	新千歳空港	1,977.7	385.8	2,363.4
6	那覇空港	1,763.4	392.7	2,156.1
7	大阪国際空港(伊丹)	1,629.9	0.0	1,629.9
8	中部国際空港(セントレア)	625.7	607.7	1,233.4
9	鹿児島空港	566.3	40.4	606.7
10	仙台空港(仙台国際)	330.1	31.1	361.3
11	熊本空港(阿蘇くまもと)	325.4	20.7	346.1
12	宮崎空港(宮崎ブルーゲージ)	322.3	14.1	336.4
13	長崎空港	320.1	6.9	327.0
14	神戸空港(マリニエ)	319.1	0.0	319.1
15	松山空港	306.3	9.5	315.8
16	広島空港	263.0	35.3	298.3
17	石垣空港(南ぬ島石垣)	250.3	8.7	259.0
18	高松空港	177.0	32.0	209.0
19	大分空港	186.5	13.7	200.3
20	小松飛行場	159.1	24.4	183.4

(出典) 国土交通省「空港利用状況概況集計表」

図表26【関西国際空港旅客数の推移】



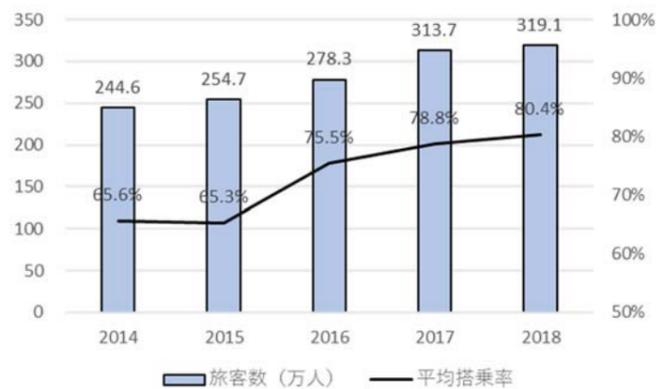
(出典) 国土交通省「空港利用状況概況集計表」

図表27【関西3空港の就航路線】

就航路線(2019.6現在)	
関西国際空港	国際線25か国(地域)89都市1,548便/週 国内線17都市、70便/日 LCC国際線の約4割、国内線の約1/2
大阪国際空港(伊丹)	国内線26都市、185便/日
神戸空港	国内線7都市、30便/日 運用規制の緩和 30便⇒40便 午後10時まで⇒午後11時まで

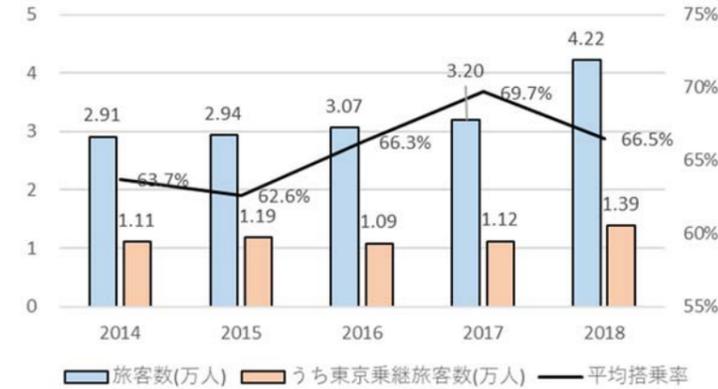
(出典) 兵庫県空港政策課調べ

図表28【神戸空港旅客数・搭乗率の推移】



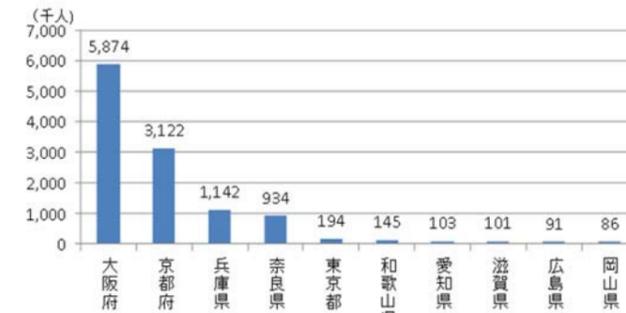
(出典) 神戸市・関西エアポート調べ

図表29【但馬空港旅客数・搭乗率の推移】

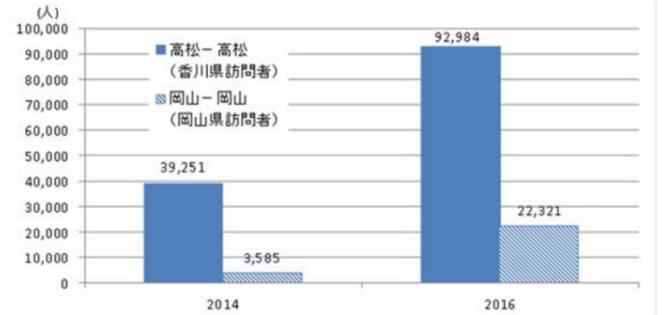


(出典) 兵庫県空港政策課調べ

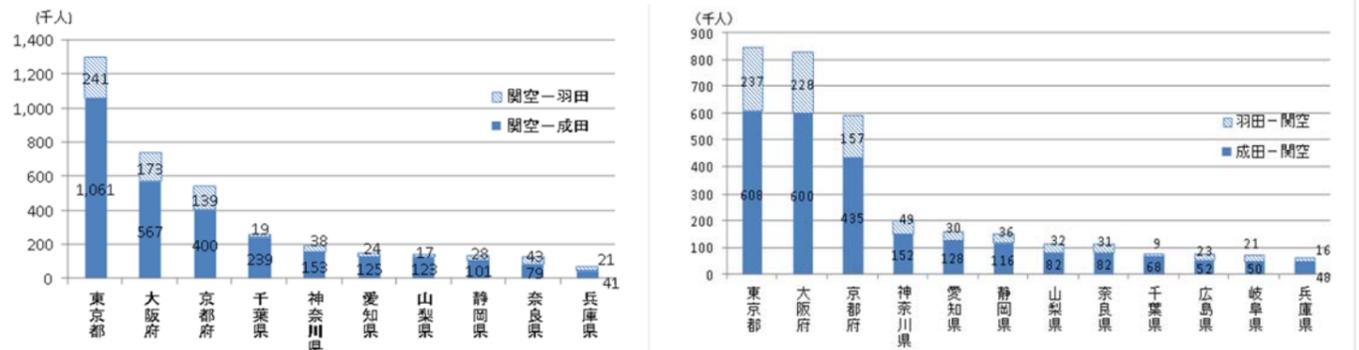
図表30【入出国とも関空を利用した外国人旅行者数(2017)】



図表31【入出国とも地方空港を利用した外国人旅行者数の推移】



図表32【入国・出国が成田・羽田空港の外国人旅行者数(2017)】



図表30~32(出典) 国土交通省「F F-data(訪日外国人流動データ)」を基に地域経済分析システムを用いて作成

[クルーズ船の状況]

- ・クルーズ船により入国した外国人旅行者は245万人(前年比3.3減)、全国139港湾での寄港回数は、過去最高の2,930回となった。(図表33・34)
- ・県内のクルーズ船寄港回数は138回、神戸港136回(全国6位)、姫路港、津居山港1回となっている。(図表34・35)

図表33【クルーズ船旅客数の推移】



図表35【港湾別クルーズ船寄港回数(2018)】

順位	港湾	回数
1	博多港	279
2	那覇港	243
3	長崎港	220
4	横浜港	168
5	平良港(宮古)	143
6	神戸港	136
7	ベトナム(広島県)	122
8	佐世保港	108
9	石垣港	107
10	鹿児島港	100
14	大阪港	45
32	舞鶴港	23
39	新宮港	16
101	姫路港	1
101	津居山港	1
101	宮津港	1
101	堺泉北港	1

図表34【県内のクルーズ船寄港回数】

年	神戸港	姫路港	津居山港	合計	全国
2015	97	3	0	100	1,454
2016	104	3	0	107	2,017
2017	116	5	0	121	2,764
2018	136	1	1	138	2,930

図表33~35(出典) 国土交通省「我が国のクルーズ等の動向について」

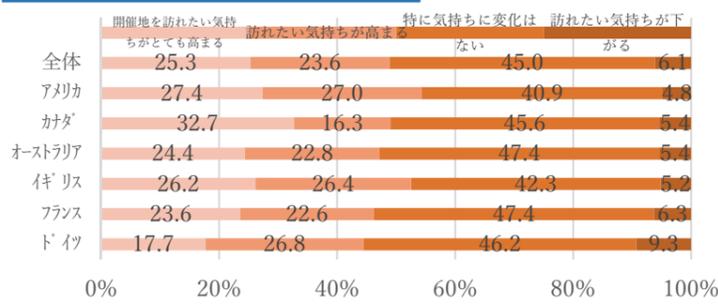
4 活用すべき兵庫の資源

(1) ゴールデンスポーツイヤーズ ～ 大阪・関西万博

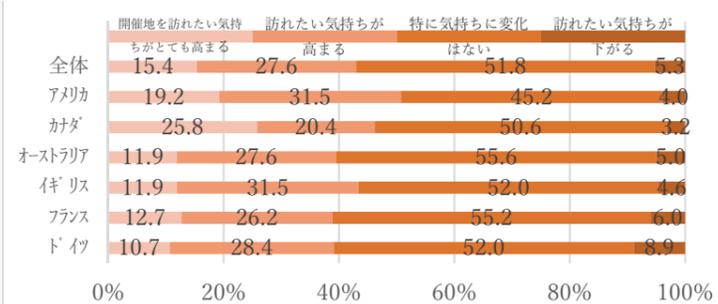
[インバウンド来訪意向]

- ・欧米豪の訪問検討者について、各イベントが開催することにより「訪れたい気持ちが高まる」人が約5割存在する。旅前から、関西、兵庫の認知度向上、観光情報の提供を確実に行っていくことが重要。
- ・一方「訪れたい気持ち下がる」人も1割未満であり、混雑の回避など開催による初「ティア」事象への対応準備も必要

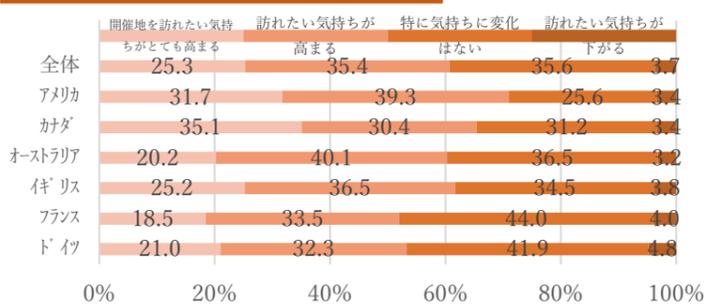
ラグビーワールドカップ2019 日本大会



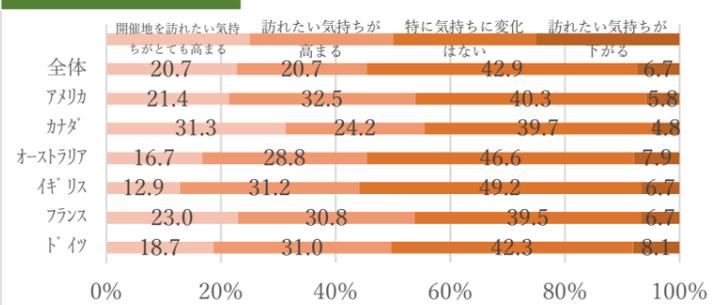
ワールドマスターズゲームズ2021 関西



東京オリンピック・パラリンピック2020



2025 大阪・関西万博



(調査概要) 期間：2018年12月～2019年3月 対象：米、加、豪、英、仏、独の3,024サンプル

(出典) 関西観光本部「2018年度関西広域周遊促進に向けたマーケティング調査結果」

ラグビーワールドカップ2019 日本大会

開催期間：2019年9月20日～11月2日
開催場所：全国12都市



1 試合(神戸)

試合会場：ノエビアスタジアム(約3万人収容)
9月26日 イングランド VS アメリカ
9月30日 スコットランド VS サモア
10月3日 アイルランド VS ロシア
10月8日 南アフリカ VS カナダ

2 来場予想

国内：約200万人(うち外国人約41万人)
県内：約12万人(うち外国人2.5万人)

【イギリス連邦からの県内来訪者予測】

イングランド	11千人
南アフリカ	4千人
オーストラリア	2千人
ニュージーランド	1千人

※県内への外国人来場予想者を国別競技人口を基に案分

3 経済効果

国内：約2,330億円(うち県内約194億円)

※県内の来場者数および経済効果は日本政策投資銀行試算より按分

誘客の取組

【旅マエ対策】

1 英国現地プロモーション(7/13～7/21)

(1) ロンドン(ジャパンセンター等)で観光セミナー実施

2 エクスペディアを活用した観光PR

(1) アメリカ、イギリス、オーストラリア、フランス、ドイツ(5/20～7/19)
(2) 香港、韓国(8/15～10/14)

【旅ナカ対策】

3 外国人旅行者への旅ナカ対策(9月～11月)

(1) 兵庫の観光情報をCNN契約ホテルへ配信
(2) 外国人旅行者スマートフォンへプッシュ配信

4 兵庫物産フェア(9～10月)

(1) RWCファンゾーンでの物販、飲食ブース出展
(2) イオン神戸南店でスポーツバー、物産フェア開催
(3) ホテルで期間限定メニューや出張物産フェア開催



東京オリンピック・パラリンピック2020

オリンピック：開催期間2020年7月24日～8月9日

パラリンピック：開催期間2020年8月25日～9月6日



2 聖火リレーコース

- ・兵庫五国すべてを巡るコース
- ・兵庫の観光スポットを世界にアピールするチャンス

1 県内の事前合宿・ホストタウン

市町名	対象国	競技種目		事前合宿決定	ホストタウン登録
		オリパラ	種目		
神戸市	オーストラリア	○	12競技	○	○(水泳)
	ネパール	○	水泳	○	○
	ニュージーランド	○	水泳	○	○
	英国	○	体操	—	○
	クロアチア	○	柔道等	—	○
姫路市	フランス	○	柔道	○	○
	ブラジル	○	シットリグボレー	○	○
加古川市	ツバル	○	陸上	○	○
	フランス	○	陸上	○	○
三木市	ネパール	○	テコンドー	○	○
	オーストラリア	○	卓球	○	○
豊岡市	ドイツ	○	ボート	○	○
	スイス	○	ボート	○	—
明石市	モンゴル	○	ボクシング	—	○
	フランス	○	ボート	—	○
香美町	フランス	○	アーチェリー	—	○



ワールドマスターズゲームズ2021 関西

- ・おおむね30歳以上であれば誰でも参加可能
- ・関西大会は第10回目の節目
- ・参加者の半数以上が年収1,000万以上の富裕層



開催期間：2021年5月14日～5月30日
開催場所：関西広域連合加盟2府7県4市
経済効果：1,461億円(うち関西広域連合圏で約913億円)
開催後8年間のカシ効果1兆868億円

2 目標参加者数

5万人(国外2万人、国内3万人)
家族含め163,800人の訪日が見込まれる
2009年 シドニー大会 3万人
2013年 トリノ大会 2万人
2017年 オークランド大会 2.5万人

1 県内開催地・競技種目

神戸市：水泳、野球、バスケットボールほか
姫路市：テコンドー
尼崎市：水泳 三木市、加西市：テニス
養父市、神河町、香美町：オリエンテーリング
南あわじ市：ビーチバレー
宍粟市：カヌー

誘客の取組

1 WMG公式サイトで体験プログラムを販売

(1) 国内外の参加者の満足を得られるような質の高い体験プログラムの開発
(2) 体験プログラムの予約が可能な観光情報プラットフォームの構築

2025 大阪・関西万博



開催期間：2025年5月3日～11月3日

開催場所：大阪 夢洲
想定来場者数：約2,800万人
経済効果：約1.9兆円

〔IR構想〕

IR運営による経済効果：年間7,600億円

愛知万博
2,200万人
1.6兆円

※大阪府試算

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
“Designing Future Society for Our Lives”



(2) 日本遺産

兵庫県は全国最多の8件が認定。兵庫五国すべてに存する日本遺産は活用すべき観光資源。

播但貫く銀の馬車道・鉱石の道

～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～

- 1 認定年度：平成 29 年度
- 2 構成団体：朝来市、姫路市、福崎町、市川町、神河町、養父市
- 3 概要：
 - ① 姫路・飾磨港から生野銀山を結ぶ「銀の馬車道」。さらに明延鉱山、中瀬鉱山へと続く「鉱石の道」
 - ② 明治の近代産業の勃興を支えた鉱山群とこれとともに栄えた宿場町や鉱山のまわりの景観、生活の今昔
- 4 地域の取組
 - ① 「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会による交流拠点づくり、魅力発信、観光客の受入体制整備、周遊ルートの創出・整備等
 - ② NPO 法人や地元団体による明延鉱山と神子畑選鉱所を結んだ鉱山鉄道「明延鉱山明神電車（一元電車）」を活用した活性化の取組



生野銀山(朝来市)



明延鉱山・一元電車(養父市)

日本海の風が生んだ絶景と秘境

～幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」～

- 1 認定年度：令和元年度
- 2 構成団体：鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、香美町、新温泉町
- 3 概要：
 - ① 古来より幸せを呼ぶ麒麟獅子をテーマに観光圏を形成
 - ② 鳥取砂丘、さざ波模様の風紋、荒波に削り出された奇岩が連なる日本海の風が生んだ絶景と秘境
- 4 地域の取組

麒麟のまちDMO(2018年1月設立)で1市6町が連携して観光振興を展開



麒麟獅子舞(新温泉町)



御崎集落(香美町)

丹波篠山デカンショ節

～民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶～

- 1 認定年度：平成 27 年度
- 2 構成団体：丹波篠山市
- 3 概要：
 - ① 篠山城の城下町を中心に宿場町、農村集落が展開
 - ② 黒大豆や山の芋を生む田畑、緑豊かな里山の山並み、京文化や播磨地方の影響を受けた祭り等の伝統文化など、デカンショ節の歌詞に織り込まれた人々の暮らしや、風景、産物、文化を体感
- 4 地域の取組
 - ① 「丹波篠山デカンショ館」の整備
 - ② 篠山城下町地区(伝統的建造物群保存)と篠山城跡の散策路整備
 - ③ 丸山集落の魅力発信、丹波杜氏と地酒の顕彰等



デカンショ祭の様子(丹波篠山市)

丹波篠山
山家の猿が
花のお江戸で
芝居する
灘の銘酒は
どなたがつくる
おらが自慢の
丹波杜氏

デカンショ節の歌詞の例

『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」

～古代国家を支えた海人の営み～

- 1 認定年度：平成 28 年度
- 2 構成団体：淡路市、洲本市、南あわじ市
- 3 概要：
 - ① わが国最古の歴史書「古事記」の冒頭に書かれている国生み神話「おのころ島」
 - ② 松帆銅鐸の出土や鉄器の生産基地(五斗長垣内遺跡)など青銅器文化から鉄器文化へ移行した珍しい島
 - ③ 天皇の食膳を司った多くの海の幸、「海人」の塩づくりなど「御食国」としての歴史
- 4 地域の取組

淡路島日本遺産委員会が核となった、講演会やシンポジウム等の魅力発信、構成文化財を結ぶ連携ルート調査等



伊弉諾神宮(淡路市)



五斗長垣内遺跡(淡路市)



きつと恋する六古窯

～日本生まれ日本育ちのやきもの産地～

- 1 認定年度：平成 29 年度
- 2 構成団体：備前市、越前町、瀬戸市、常滑市、甲賀市、丹波篠山市
- 3 概要：
 - ① 瀬戸、越前、常滑、信楽、丹波、備前のやきもの「日本六古窯」
 - ② 平安時代末の開窯から約 800 年間、土味を行かした力強い作風から多彩な釉薬を用いた作風、独特の登り窯の形状など、さまざまな作陶技法が現在まで連続と続く
- 4 地域の取組
 - ① 六古窯周遊モニターツアーの実施
 - ② 丹波焼・農村・城下町を行かした外客誘致
 - ③ 食文化や伝統工芸等に関わる人材との連携 等



丹波立杭登窯(丹波篠山市)



丹波立杭焼(丹波篠山市)

荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間

～北前船寄港地・船主集落～

- 1 認定年度：平成 29 年度
- 2 構成団体：酒田市など 45 市町
(県内：神戸市、高砂市、洲本市、赤穂市、新温泉町、姫路市、たつの市)
- 3 概要：
 - ① 高田屋嘉兵衛に代表される「北前船」。蝦夷のニシンや昆布などの産物と綿織物や酒、米などとの交易を函館から大阪までの沿岸を寄港しながら運んだ。
 - ② 北前船が育んだ街並み衣食住文化
- 4 地域の取組
 - ① 兵庫津北前船関連商品の販売(神戸市)
 - ② 高田屋嘉兵衛のゆかりの地のマップ作製(洲本市)
 - ③ 古民家を活用した観光客向け休憩所の整備等(赤穂市)など



北前船顕彰館(洲本市)



坂越の街並み・旧坂越浦会所(赤穂市)

「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂

- 1 認定年度：令和元年度
- 2 構成団体：赤穂市
- 3 概要：
 - ① 広大な干潟は入浜塩田の開発に適しており、その製塩技術は、市場を席卷するまでに成長
 - ② 瀬戸内海から生み出される塩とともに歩んできた歴史文化が蓄積され、現在に息づく「塩の国」
- 4 地域の取組
 - ① 塩づくりの歴史を今に伝える赤穂海浜公園の「塩の国」をリノベーション
 - ② 赤穂市内の歴史的資源を「しお回廊」として有機的に結ぶ
 - ③ 塩の国で生産する塩を活用した商品開発



塩の国(赤穂市)



赤穂塩務局(赤穂市)

1300年つづく日本の終活の旅

～西国三十三所観音巡礼～

- 1 認定年度：令和元年度
- 2 構成団体：滋賀県大津市など
(県内：姫路市〔書写山圓教寺〕、宝塚市〔中山寺〕、加西市〔一乗寺〕、加東市〔播州清水寺〕)
- 3 概要：
 - ① 観音を巡り日本人本来の豊かな心で生きるきっかけとなる旅
 - ② 人生を通して、いかに充実した心の生活を送れるかを考えることが、日本人にとっての究極の終活
- 4 地域の取組
 - ① 巡礼の新たな魅力として各札所の絶品スイーツを食べ歩く「スイーツ巡礼」をPR
 - ② 「日本の終活の旅」推進協議会による案内板の整備、日本遺産ガイドの養成、情報発信、旅行商品の造成等

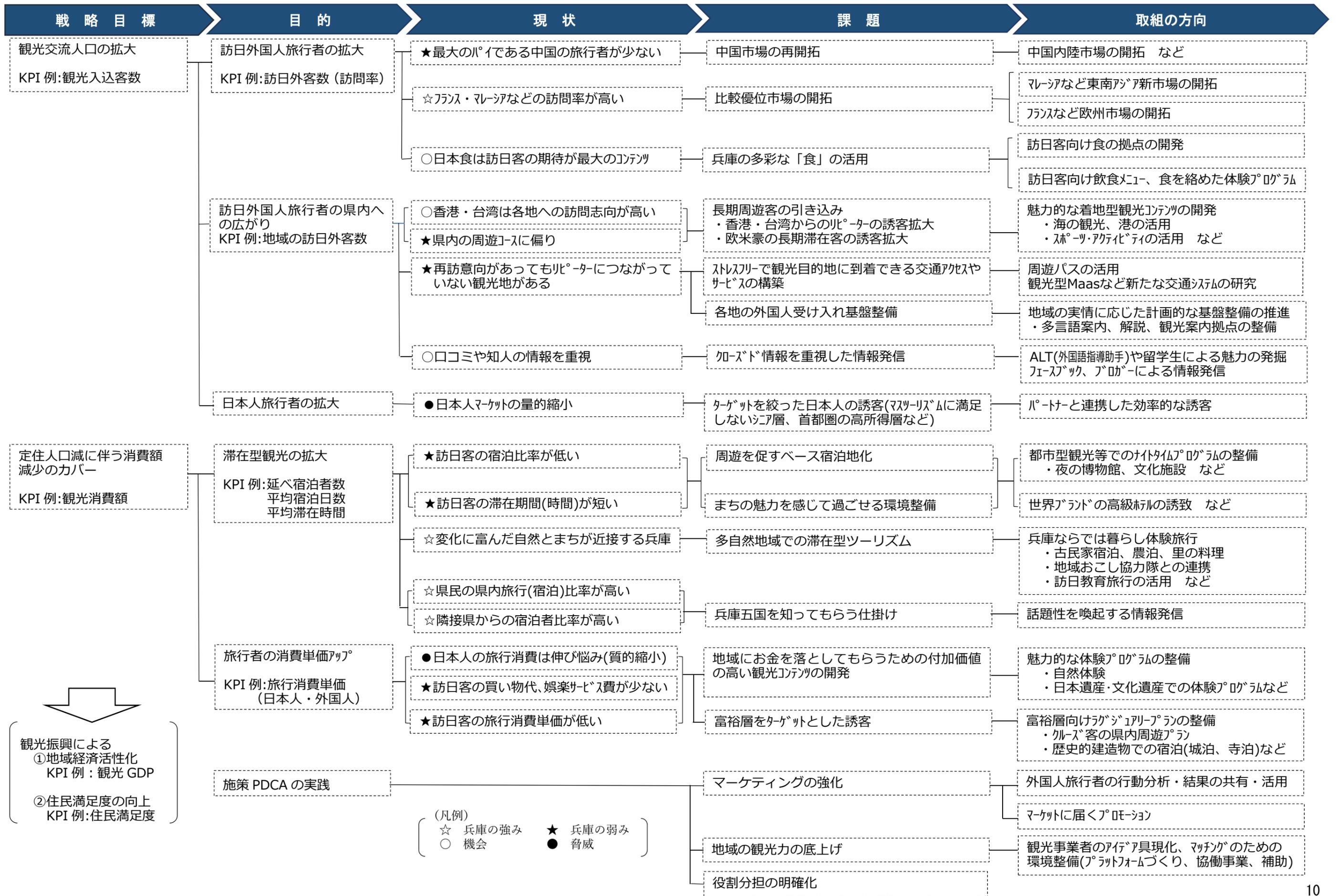


中山寺(宝塚市)



播州清水寺
十一面千手観音菩薩(加東市)

5 課題と取組の方向



観光振興による
 ①地域経済活性化
 KPI 例: 観光 GDP
 ②住民満足度の向上
 KPI 例: 住民満足度